

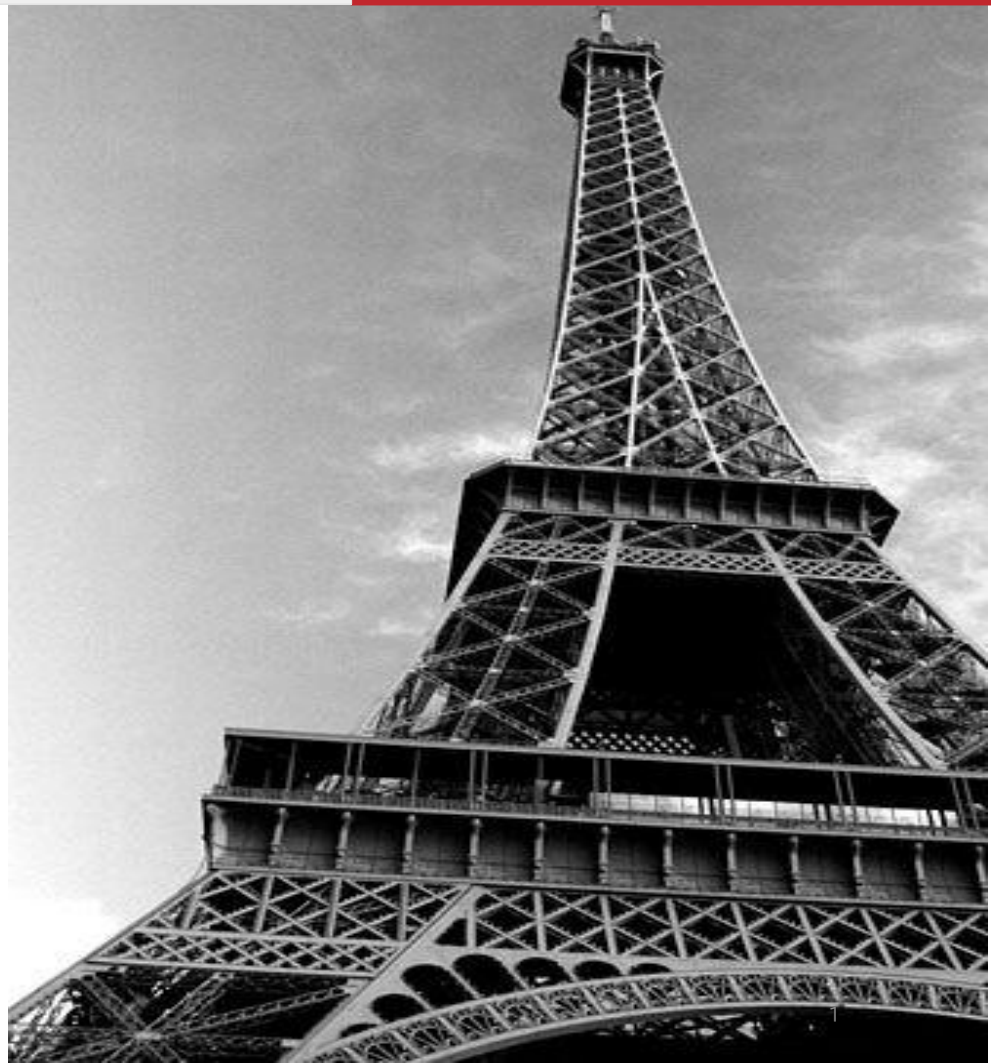
令和8年度 第1回大学等の質保証人材育成セミナー
質保証を「動かす」仕組みを考える
— 英仏の実践から学ぶ、対話・データ・改善のつなぎ方 —

フランスの経験から見る 大学評価改革

2026年9月16 日(水)

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構

野田文香



本日のアウトライン

I フランスはなぜ評価改革に向かったのか

- フランス高等教育の構造と「上海ショック」
- AERESの段階別評価からHcéresへ

II 教育プログラムの質を、誰がどう保証するのか

- 学位付記名称・コンピテンスの全国共通化と資格枠組み(RNCP)
- 国・大学・各教育プログラムの役割分担
- 個々の教育プログラムの第三者評価から、大学の内部質保証の評価へ
- 2026年から Hcéres は何を見るのか

III 何のために評価するのか

- 学位や多様な学びの価値を社会に伝える
- 大学自身の内部質保証と改善を動かす

フランス高等教育の特徴



二元構造 —— 大学とグランゼコール

高等教育の学生数:約300万人

- ・大学:約75校/約163万人(全体の約54%)
- ・グランゼコール:200校超(選択制。多くは大学より小規模)

学位制度

国家学位は国の名において授与

- ・国の認可を受けた大学等が、国の名において国家学位(diplôme national)を授与
- ・2002年以降:LMD制度(学士3年-修士2年-博士3年)



(出典:MESR-SIES 2024-2025年度/※ グランゼコールは法令上の単一の学校種ではなく、選択制の高等教育機関群を指す呼称)

国家学位の枠組みの下に、大学とグランゼコールなど多様な機関が並存する

フランス高等教育改革の転機となった「上海ショック」

上海交通大学が発表した世界大学ランキング(2003年)——フランスはなぜ評価改革に向かったのか

2003年 世界大学ランキング
大学 Top100 入り:

2 機関

(Université Pierre et Marie Curie / Université Paris-Sud)

グランゼコール Top100:

0 機関

この結果は、フランス特有の制度構造による見えにくさが大きく影響した

① 研究者がCNRS等に所属

国立研究機関CNRS等に所属し、成果が大学名に出ない

② グランゼコールが独立

選抜制の有力校の成果が大学スコアに入らない

③ 小規模機関の分散

個別では国際的に規模・量が不十分

④ ランキング指標の性格

機関規模・論文数・引用数等を重視

国際競争力の強化と、研究成果を国際的に見える形にすることが政策課題に

→ これを象徴的な契機の一つとして、評価制度の整備が進む。

(2026年ARWU: Paris-Saclay 13位・PSL 33位・Sorbonne 55位・Paris Cité 57位)

高等教育の二元構造と相互接近

大学 Universités

バカロレア取得者に原則開かれた大学教育

※定員超過の教育プログラム等では Parcoursup を通じて調整

本来の機能: 教育研究

近年強化: 職業教育・職業接続

- ・職業志向の教育プログラムの拡充
- ・コンピテンスに基づく教育プログラム設計
- ・卒業後の職業との接続を重視



グランゼコール Grandes Écoles

選抜制の高度専門職養成機関

本来の機能: 高度専門職の養成

近年強化: 研究機能・博士教育

- ・研究活動・研究組織の強化
- ・博士教育への参画
- ・大学・研究機関との連携



国際競争力への危機感に加え、大学教育には、卒業後の職業接続や学位の価値を明確に示すことが求められるようになった。双方が役割を拡張し、教育と研究の両面で相互接近が進んだ。

フランスの高等教育・研究評価機関 Hcéres

Haut Conseil de l'évaluation de la recherche et de l'enseignement supérieur = 高等教育・研究評価高等評議会

設立: 2013年高等教育・研究法により創設(2014年11月発足)

役割: 高等教育機関・研究機関・研究ユニット等を評価し、質の向上と内部質保証を支える

※ 国家学位の認可は高等教育・研究・宇宙省が行い、Hcéres は評価を担う。国外業務では、Hcéres が評価を行い、質保証ラベルを付与する。

※ 同じ 2013 年法が、学位の認可制度(habilitation → accréditation)や大学の再編も定めた。

高等教育機関の評価

大学等の戦略・ガバナンス・
内部質保証を評価

教育プログラム全体の評価

教育プログラムの編成・運営、
内部質保証方針、学生の学習
経路を評価

※ 2026年～ 個々のプログラ
ムを一つずつ評価する方式を廃
止し、全体の編成・運営を評価

研究機関の評価

CNRS 等の研究機関全体の
戦略・運営を評価

研究ユニットの評価

大学や研究機関に置かれた研
究ユニットの活動・成果・運営
を評価

前身機関 AERES(2007-13)の段階別評価→廃止

2013-14年 評価機関の交代と、教育プログラムの段階別評価の廃止

AERES の段階別評価

・教育プログラムと研究ユニットをA+／A／B／Cで段階別評価

・教育プログラムの評価観点

・教育計画／進級・修了に向けた学生支援／就職・進学／プログラム運営

・段階別評価の目的

評価結果を共通の尺度で示し、国家学位の授与継続に関する国の判断材料とし、大学の教育改善・再編に活用するため

A+

A

B

C

段階別評価

大学等から指摘された主な課題

- ・複雑な教育プログラムの質を一つの評点に還元することへの疑問
- ・評点が教育プログラムに不利益をもたらすとの懸念
- ・序列化や「制裁」と受け止められる問題

出典:Sénat 2013／AN 2009・2012／Hcéres 2014

2013-2014年度: 教育プログラムの評点を廃止し、基準ごとの記述式評価へ ／ **2014年:** Hcéres設立
同じ2013-14年度に、研究ユニットの評点も廃止された。

学位付記名称<mention>の全国共通化(2014年)

改革前:大学ごとに学位付記名称が細分化され、進学希望者や雇用者にとって、学位の内容や違いが分かりにくくなっていた

300超 の学位付記名称

→ **45** の全国共通の学位付記名称に整理(2014年)→ 現在 50

以下の4つが domaine(学問領域)—— mention は学士(法学)の「法学」にあたる部分

芸術・文学・
言語

法律・経済・
経営

人文・
社会科学

科学・技術・
保健

学位の3つの階層

例)歴史学の学士
Licence Histoire

domaine

人文・社会科学

国が定める(4領域)

mention

+ 歴史学

国が定める(全国共通50)

parcours(各大学が設定)

例)美術史・考古学など

学位記には domaine と mention を記載

共通の mention の下で、各大学は parcours に特色を持たせる

進学希望者が進路を選びやすくし、学位の内容が職業界や国外にも伝わるようにする

※ 同様の名称整理を他の学位にも実施 職業学士:1,844の個別の学位付記名称 → 173

修士:約5,900の spécialité → 246の全国共通の学位付記名称

50の学位付記名称一覧(学士 licence)

4つの領域(domaine):①芸術・文学・言語 ②法律・経済・経営 ③人文・社会科学 ④科学・技術・保健

50 の学位付記名称(mention)—— 2014年1月22日省令(arrêté)／2025年12月11日改正

公共行政
経済・社会行政
法学
経済学
経営学
経済・経営学
政治学
保健衛生・社会福祉学
人文学(Humanités)
歴史学
美術史・考古学
地理・国土整備
社会学
心理学
教育・訓練科学
哲学
神学

社会科学
人間科学・人類学・民族学
言語学
情報コミュニケーション
芸術
造形美術
舞台芸術
音楽学
文学
外国・地域の言語・文学・文明
応用外国語
文学・語学
情報学
人文・社会科学応用の数学・情報学(MIASHS)
数学
物理学

化学
物理・化学
生命科学
地球科学
生命・地球科学
電子・電気エネルギー・自動制御
機械工学
土木工学
保健科学
科学技術
工学系科学
体育スポーツ学(STAPS):トレーニング
体育スポーツ学:人間工学・運動性能
体育スポーツ学:適応身体活動と健康
体育スポーツ学:スポーツマネジメント
体育スポーツ学:教育と身体運動
小学校教員養成(LPE)

国が定める学士共通・分野別のコンピテンス(2018年～)

学位の中身をコンピテンスで記述し、フランス資格枠組み(RNCP)に登録する仕組み

国が二層で定めるコンピテンス

例)歴史学の学士 Licence Histoire

フランス資格枠組み(RNCP)40740 レベル6

学士共通の横断的コンピテンス:5ブロック

- ① デジタルツールと情報セキュリティを活用する
- ② データを批判的に選択し、分析・総合する
- ③ 口頭・文章で表現し、少なくとも一つの外国語でも伝える
- ④ 職業分野のなかで自分の位置づけを定める
- ⑤ 組織のなかで責任をもって行動する

歴史学の分野別コンピテンス:4ブロック

- ⑥ 史料を歴史的・地理的に分析し文脈づける
- ⑦ 歴史に関する調査研究を行い、成果をまとめる
- ⑧ 文書・文化遺産資料を管理する
- ⑨ 歴史を伝え、理解を支援する

コンピテンス一覧と評価方法 —— 内部質保証の共通枠組み

⑥ 史料を歴史的・地理的に分析し文脈づける

ブロックを構成するコンピテンス一覧

- ・ 多様な種類の史料を分析する(文書・図像・統計等)
- ・ 史料群・作品・研究対象を歴史的文脈に位置づける
- ・ 研究対象の形式と類型を特定する
- ・ 研究対象の図像を読み解く
- ・ 著者や成立年代を特定する手がかりを見いだす
- ・ 著者の主観性と情報源について検討する
- ・ 用語や表象と、それらがもつ歴史的な奥行きを検討する
- ・ 用語や表象に関連する概念を特定する
- ・ 研究対象がもたらす歴史的な視点を提示する
- ・ 社会の研究に地理的・社会的・文化的な視点を取り入れる
- ・ 出来事や歴史的過程を、長期的かつ比較の視点から位置づける
- ・ 研究対象の意義を文章と口頭で提示する

評価方法(各大学が設定)

各大学が、作品提出・実技演習・プロジェクト評価など、適切と考える方法を設定する

どのような職業につながるか(参照情報)

産業分野:経営管理、公共行政、芸術・娯楽、サービス業、情報通信

利用可能な職種:文化遺産の保存・活用に携わる専門職、編集・出版アシスタントなど

国・大学・各教育プログラムの役割分担

2026-27年度以降 Hcéres は大学全体の教育プログラムの編成・運営と内部質保証の実効性を評価

国がすること

高等教育・研究・宇宙省 / France compétences

- 大学等に国家学位を授与する権限を認める
- 学位付記名称(mention)と、名称ごとに求めるコンピテンス・資格レベルを全国共通で定める
(学士=レベル6、修士=レベル7)
- 就ける職種・活動分野を参考情報として示す
- コンピテンス、資格レベル、職種・活動分野等をフランス資格枠組み(RNCP)に登録する

各教育プログラムがすること

- 国が示すコンピテンスを教育内容に落とし込む
- プログラム独自のコンピテンスを加える
- コンピテンスと科目・授業・評価方法を対応づける
- 学生の到達状況を確認する
- 結果を教育内容と学習支援の改善につなげる

国が国家学位の共通枠組みを示す——各教育プログラムが教育・評価に落とし込み、大学が全学として質を保証する

2026年からの評価方法の転換

2026-27年度からの新方式 評価負担の軽減と、評価方法の転換

従来

- Hcéres が個々の教育プログラムを網羅的に第三者評価
- 自己評価書と根拠資料の大量作成、重複提出
- 教育研究時間の圧迫



2026年～

- 全教育プログラムを一つずつ第三者評価する方式を廃止
- 大学による教育プログラム全体の編成・運営と内部質保証を評価

2026年に承認・公表された新しい評価方式(会長 Coralie Chevallier)

- 評価周期を5年から6年へ
- 評価手続を2年から1年へ短縮
- 規範的な参照基準を、より簡素で柔軟なガイドへ
- 定型様式・Excel提出を廃止し、自由形式へ
- 各機関の状況に応じた評価と現地訪問を重視

プログラムごとの第三者評価から、大学自身の質保証の実効性を評価する方式へ

2026年からHcéresは何を見るのか

大学自身が教育の質を保証・改善する仕組みが、全学的に機能しているかを評価する

① 教育プログラム全体をどう編成・運営しているか

- 大学の戦略と教育プログラムの構成が整合しているか
- プログラムの規模に対して、教員・財源等の資源が見合っているか
- 継続して提供できる仕組みになっているか
- 指標やデータを意思決定に活用しているか

② 内部質保証が実際に機能しているか

- 国家学位を授与するための要件、ECTS、フランス資格枠組み(RNCP)のコンピテンス等との整合性を確認しているか
- 学生数、修了、中退、進路等のデータを把握・分析しているか
- 学生、教員、卒業生、職業界等の意見を収集しているか
- その結果を教育内容・評価方法の改善につなげているか
- **マイクロクレデンシャル等も質保証の対象に含めているか**

評価対象は学位プログラムだけではなく、生涯学習、見習い訓練、既修得学習や経験の認定、マイクロクレデンシャルも内部質保証の対象となる

③ 多様な学生と学習経路を支援しているか

- 多様な学生の進級・修了・進路変更を支援しているか
- 生涯学習、職業教育、実習・職業経験などを学習経路に組み込んでいるか
- 学習成果や卒業後の進路を分かりやすく公表しているか

国家学位としてのコンピテンスの到達水準を維持しながら、学生の到達を支援し、必要に応じて別の学習経路への進路変更を支援

まとめ: フランスは何を、何のために評価するのか

① 何を評価するか

国が共通に示すもの

- 学位付記名称(mention)
- 学士共通・分野別のコンピテンス
- フランス資格枠組み(RNCP)の資格レベルと職業との接続

大学が実現・保証するもの

- 教育プログラムの編成・運営
- コンピテンスに対応した科目と評価方法の設定
- 学習成果やデータ、関係者の意見に基づく改善
- マイクロクレデンシャル等を含む内部質保証

国が示す学位の中身を、大学が実現・改善できているか

② 何のために評価するか

国際的に

- 教育研究の成果と学位の価値を見えるようにする
- フランス高等教育の国際的な通用性・競争力を高める

社会に対して

- 学位で何を身につけられるかを示す
- 学位と職業とのつながりを示す
- 学生・雇用者・社会が学位等の価値を理解できるようにする

大学に対して

- 教育上の課題と強みを把握する
- 教育内容・評価方法・学生支援を改善する
- 内部質保証を継続的に機能させる

学位の価値を国内外に示し、学位課程やマイクロクレデンシャル等の質を保証・改善するため

ご清聴ありがとうございました
